

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	【上位目標】 ミンダナオ島ピキット・マリダガオ川沿い地域において、紛争被害に遭った子どもたちの初等教育環境を向上させ、草の根レベルでの平和を定着させること。 (達成度とその理由：100%) 本事業を通じて、対象地域にある中学校の 6 教室が新築され、穴の開いた屋根の教室や屋外ステージで学んでいた 394 名の生徒が、コンクリートでできた教育省標準の教室で教育を受けることができるようになり、教育環境が向上した。また、地域で平和を推進するモデル校である「平和の学校」が作られ、地域において平和を定着させる仕組みが構築された。
(2) 事業内容	【ハードコンポーネント】 (イ) スルタン・メモリアル中学校での新築 1 棟 6 教室の建築 (ロ) 同中学校教室備品の整備（椅子や机、黒板等） 活動内容 ミンダナオ島ピキット北東部にあるスルタン・メモリアル中学校において、新築 1 棟 6 教室の建築、そしてその教室の椅子や机、黒板等の備品の整備を行った。業者選定の透明性を高めるために、公開競争入札方式に切り替えたが、それ以外は申請書の通り進められた。参照：「ハードコンポーネント詳細」 【ソフトコンポーネント】 (ハ)「平和の学校（SOP:School of Peace）」準備活動 (ニ)「平和の学校（SOP:School of Peace）」研修 (ホ)「ミンダナオ子ども議会」の開催 活動内容 以下、3 つの研修に関しても、予定通り、順調に進められた。参照：「ソフトコンポーネント詳細」 (ハ)「平和の学校（SOP:School of Peace）」準備活動 フェーズ 1（本年度）の「平和の学校」対象校であるティヌトゥラン村及びフェーズ 2 の対象校であるヌグアン村、バラティカン村、バラバック村の小学生、中学生、地域リーダー延べ 211 名に対して、「平和」や「平和の学校」の基礎についてのオリエンテーション研修を計 7 回実施した。 (ニ)「平和の学校（SOP:School of Peace）」研修 地域レベルで平和教育を推進する「平和の学校」になるための研修を、ティヌトゥラン村の小学生、中学生、地域リーダー、教師延べ 858 名に対して計 19 回実施した。 (ホ)「ミンダナオ子ども議会」の開催 ミンダナオ島各地の 10 の異なる先住民 32 名の子どもたちが集まり、それぞれの文化や地域での生活の課題を話し合い、将来のあるべき地域社会の姿を発表する「ミンダナオ子ども議会」を開催した。

(3) 達成された効果

【効果 1】

スルタン・メモリアル中学校の約 300 名の子どもたちの教育環境が整えられる。

(指標 1) 事業終了時、同校の生徒数が 300 名以上であり、且つ 1 教室あたりの生徒数平均が、50 名以下となっている。

(達成度とその理由) 100%達成

スルタン・メモリアル中学校では、本事業において 6 教室が新築されたことで、既存の 2 教室と合わせ、8 教室が使用可能となった。2012 年度の生徒数は 394 名、1 教室辺りの生徒数平均は、60.2 名から 49.25 名へと大幅に改善された。また、本事業を契機に、教育省により、同校の教員が 4 名増員され、合計 15 名になるとともに、ピキット町により学校敷地内への浸水を防ぐための排水溝も建設され、子どもたちの教育環境は確実に改善されている。

【効果 2】

balanガイティヌトゥランにある小学校と中学校が、「平和の学校」となる。

(指標 2) 同校において、宣言式が行われ、且つ教育省から「平和の学校」証明書が発行されている。

(達成度とその理由) 100%達成

2012 年 9 月 19 日、同校で、北コタバト州、教育省第 12 地区、教育省コタバト事務所、ピキット町、ティヌトゥラン村、国際停戦監視団 (IMT)、モロイスラム解放戦線 (MILF)、バンサモロ開発庁 (BDA) 等からの来賓を前に、「平和の学校」宣言式が行われるとともに、教育省から「平和の学校」の証明書が発行された。

【効果 3】

400 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を知っている。

(指標 3) 研修終了時のアセスメントシートにおいて、400 名以上が暴力に頼らない争いの回避方法を回答している。

(達成度とその理由) 100%達成 :

全研修後のアセスメントシートで 430 名が暴力に頼らない争いの回避方法を理解していることが確認された。平和研修を学際的なものではなく、実際の地域や子どもの間で起こっている争いを例にした実践的なものにしたことによる効果が高く、小中学生、教師、地域リーダーともに、争いをどのように予防するか、争いが始まったときに、リーダーはどのように当事者たちに介入すべきか、具体的に回答できているものが多かった。また、数値化はされていないが、教師からは、生徒会（生徒リーダー）が子ども同士の争いの予防と初期対応が適切にできているために、校内での子ども同士の争いが減少しているとの報告を受けている。※当地では、現在でも、子どものケンカでさえも、大きな氏同士の武力衝突にまで発展する背景がある。

	【効果 4】 30 名以上の子どもが自分たちの置かれている状況を分析、共有することができ、相互理解が促進されている。 (指標 4) 30 名以上の子どもたちが、「ミンダナオ子ども議会」の中で自分たちの地域の状況を絵で描き、発表をすることができるとともに、研修終了時のアセスメントシートにおいて、他の民族の置かれている状況について、知識が増したと回答している。 (達成度とその理由) <u>100%達成</u>： 「ミンダナオ子ども議会」では、ミンダナオ各地から参加した異なる文化を持つ 32 名の子どもたちが、家族や地域が抱える課題について絵で描き、活発に共有することができた。また、研修終了時に、参加者全員が、多民族についての知識が増したと回答している。子どもたちからは、「地域に教会とモスクを作ってキリスト教徒とイスラム教徒と一緒に暮らせるようにしたい」といった夢や、「お互いを差別せず、ミンダナオに平和をもたらせるようにしたい」という発言があり、「相互理解の促進」を超えて、「理想のミンダナオ」をつくるために、「何がなされるべきか、自分が何をすべきか」についての議論が活発に行われた。
(4) 持続発展性	【ハード面】 教室や備品の維持管理は、教育省とスルタン・メモリアル中学校が行う。これについては「引き渡し協定書 (Deed of Donation)」の通り、教育省が予算措置を行う。使用状況について、当法人が、事業終了後最低 5 年間のモニタリングを行う。 【ソフト面】 学校の計画はすべて「年間計画書」に基づく。研修において、「平和の学校」に資する「年間計画書」が同校においてすでに作られており、これに「新任教諭への平和の文化のオリエンテーション実施」、「平和教育授業案の活用」、「平和キャンプの実施」等が盛り込まれている。その為、教師の入れ替えや追加があっても、次年度以降も効果が持続していくことが期待される。また、この「年間計画書」が「平和の学校」に資するものかを、教育省が毎年確認して予算を執行するため、チェック機能が働く体制となっている。申請団体も、研修の効果に関して、事業終了後最低 5 年間のモニタリングを行うとともに、随時フォローしていく。